

第十四回俱樂部レース

S.Y.C. 二着 六分三十秒
赤鬼 一着 六分十秒
明星

第十五回對部レース

庭球部 二着 六分四十二秒
武術部 一着 六分十八秒
徒歩部

第十六回特選レース

大庭組 二着 六分四十七秒
下村組 一着 六分四十五秒
上田組

第十七回名譽レース

宮田組 一着 六分四十七秒
松本組 二着 六分五十一秒
居川組

第十八回來賓レース(直航)

來賓組 一着 二分十三秒
來賓組 二着 二分二十秒
先生組

前の天幕の中には諸先生の顔もにこ／＼してゐる、土俵のまわりは黒々と人の輪をなして町人の観客もかなり多い、こうして角力ははじまつて一年の一番勝負となる、あまりにあつけない。

此の中で私等是一个の面白い皮肉を見た、大兵西澤、誰もよく知つてゐるやう其の大兵が小兵の山田にうまくまけたのだ。西澤には自信があつたらうとして油断もあつたらう、何にしろ大兵に勝つた山田はえらいに違ないが然し、「ぐにやり」と土俵ぎわで二三度バウンドしてやられたのは私等はかなりあんぐりした。どつと云ふ笑聲が起つたとしてかなり長かつた。勿論負けだ西澤を悲しむ心はみんなにあつた。西澤は後に三本抜にうまく前の味噌をぬぐつた、然し其の勝方はあまりにあつけないものだつた、其の爲か何かは知らんが三本抜は二回くりかへされた。

二年は何事もなう平凡だつた。
三番勝負ではあつたが大抵は一人が續けさまに二本とつてしまつたのが多かつた、五本抜も腕を握らす程でもなかつた。三年三番勝負はかなり充

何れも嘗て腕に覺えの來賓揃ひ先生組の振はざる亦宜なる哉と爾云
第十九回俱樂部名譽レース

集

赤鬼 一着 六分三十二秒
武術 二着 六分四十秒
如何しても赤鬼は本日の白眉なり。

かくて祝勝大會は了りぬ。記録者の怠慢本日の各回に對する適切の批評と狀況陳述とを略せるを乞ふ諒とせよ。

角力大會

時日大正九年十月一日午後一時より、

校庭土俵

今年の角力大會は午後からだとか云ふ話が我々の間にしばらく聞いてゐた、あかんなど誰かい云ふ、そして角力大會は十月一日の國勢調査の日に其の通り午後から開かれた。其して誰も何とも云はない、秋は清い天は高い涼しい風が来る。土俵

實してゐたやうに覺える、やはり三年だ君等は本校の中堅である。自重すべきものであらねばならぬ。其の意味に於て吾人は元氣あつた五人抜もまだ／＼満足すべきでない云ふ、五本抜は勇壯といつてよいものだつた。川村、杉本もよく戦つた、宮川は天晴れた。此の時大分角力氣分になつて來た、わつ／＼と云ふ聲も起つて來た凡てに充實が必要だ角力組む者も見るとしてはじめて、面白い角力が出来るのだすべてが其うだと我は諸君に云ふ、觀衆も熱して來た、行司の音もさえた。呼出しの親爺も仲々愛嬌を振りまく。

「四年級の三番組でござります」と行司の爺がよばれる、土俵まわりの頭數もかなり増した。しつかりやれど私等は應援するのだ。

四年の三番勝負、其れは餘程張りつめたものだつた、其してあらゆる新機の角力と思はしめるまでもに噴飯の角力があつた。私等は幾度となく腹の皮をよらされた。

五本抜との間に室谷先生の模範五人勝負があつた、地平まづ組むや地平どつと組んで足まきつけ

土俵際にためらひてどつとたはす、拍手、どつと起る、ついで牧野組む、ビツチャー／＼と援呼する、須天倒室屋先生の負けだつた。奥山美事にまき倒されて退く、山本どつと組めば「どすん」と投げらる、が、悲しい事には、室谷先生の足が出た。誰も惜しいと思つた。其して何ともなしに、どつと歡呼した。

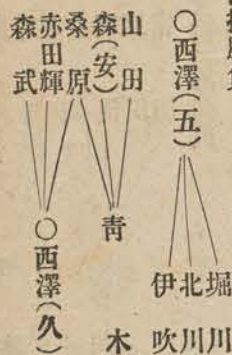
四年級五本拔は後だ四本拔となつた、其して直に勇ましいと云ふ感じのするものだつた、高橋よく戦つた、牧野も勇敢だつた、最後の勝者は富江だつた。四本拔と曰つたとか云はぬとか一寸ごたつた様だつた、が其處は、行司の腕前でうまく治まつた、然し豪傑連中は一寸鷹に油揚げをさらはれたと云ふ体だつた。すべて四年の角力は、通じて手に汗を握らすと云ふよりもうんとやれそれやれと云はしめる、体のものだつた。學生角力として青年の角力として賀すべきものかも知れないそして私はこうあつてほしいと嬉しく感じたのである。君等はこれから正に突進すべき者だから慕直に進むべき者だから。

時に城山からグリーンと四つ響いて來た、横雲のかなた夕雲はかすかに赤かつた。

一年級一番勝負

- | | | |
|-----------|----------|-----------|
| 1 (西澤久) ○ | 2 (小林) ○ | 3 (中山) ○ |
| 桑原 | 淺岡 | 堀川 |
| 4 (重森) ○ | 5 (岩佐) ○ | 6 (三和) ○ |
| 北川 | 森安 | 伊吹 |
| 7 (梅本) ○ | 8 (青木) ○ | 9 (西澤五) ○ |
| 赤田輝 | 森武 | 山田 |
| 10 (山中) ○ | | |
| 近藤 | | |

三番拔勝負



二年級三番勝負

- | | | |
|------------|-------------|------------|
| 1 (若松) ○ ○ | 2 (吉川英) ○ ○ | 3 (若松) ○ ○ |
| 松木 | 橋本義 | 小島 |

五年の三番勝負實はたつた六組である、これに一寸「おや」と口あんぐりせしめられた。

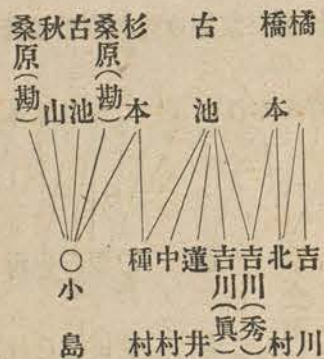
我には其の小數なのは悲しまない、たゞ其が立派に徹底してゐる方が多くのだらけたものよりも何程か望ましい事であらう。數十人の凡人よりも一人の天才が社會としては望ましいかも知れない、賀すべきかも知れない、が、然し天才教育は結構だが其れを主張する者が履き違へては大變だ諸君が角力に鮮かでないならばやられない方がよいかも知れぬ。然し他方面に於て諸君の天稟に突貫せらるゝ所は勿論なくてはならないと思はざるを得ない。實際六つの取組は立派な、徹底してあつたと思つたこれは私のみではなかつたに違ない。

五年の三人拔六人の三人拔もいさましく、意氣あつて終つた、椋田モシヤモシヤ山勇者の名をなした、數は少ない、然し意義ある者だつた貫徹する所あるものだつた。

こうして恙なく、意氣あつて來つたのが千秋樂である。

五番勝負

- | | | |
|------------|------------|------------|
| 4 (桂田) ○ ○ | 5 (古池) ○ ○ | 6 (北村) ○ ○ |
| 蓮井 | 朽木 | 吉川真 |
| 7 (青木) ○ ○ | 8 (秋山) ○ ○ | 9 (種村) ○ ○ |
| 橋 | 中村 | 桑原勘 |

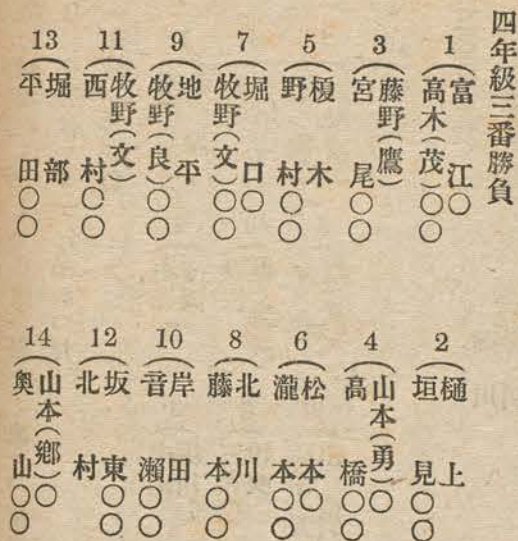
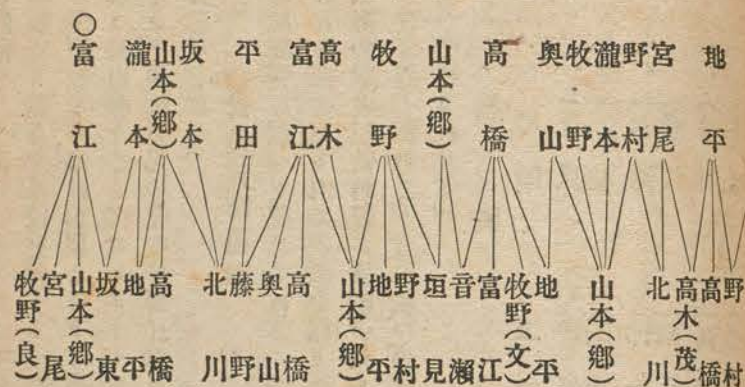


三年級三番勝負

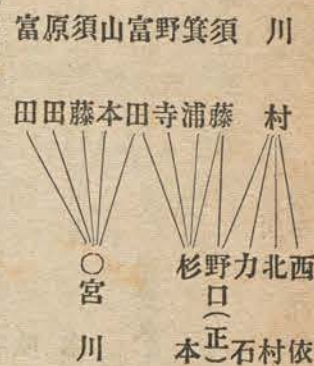
- | | | |
|------------|------------|------------|
| 1 (千菊) ○ ○ | 2 (西野) ○ ○ | 3 (箕浦) ○ ○ |
| 北村 | 野口英 | 力石 |
| 4 (西依) ○ ○ | 5 (須藤) ○ ○ | 6 (山本) ○ ○ |
| 西川 | 原田 | 野口正 |
| 7 (野寺) ○ ○ | 8 (平川) ○ ○ | 9 (富田) ○ ○ |
| 杉本 | 川田 | 宮川 |

五人拔勝負

五年級三番勝負



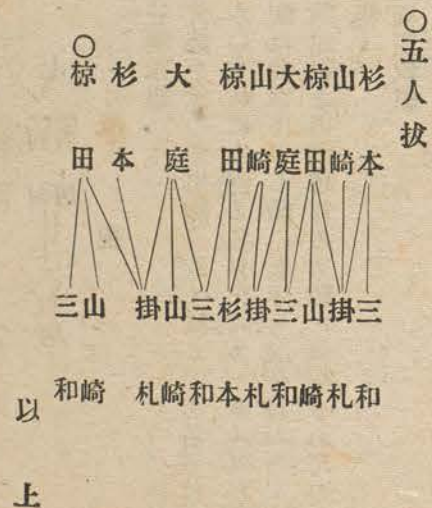
四年級三番勝負



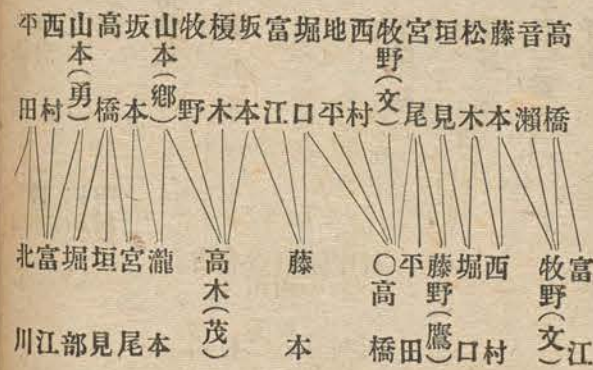
昨冬重填園白髭猪田を失ひたる我部は伊吹の殘

○春 期 練 習

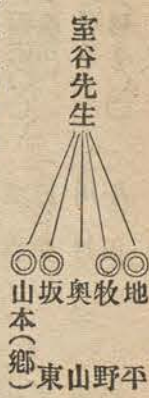
大正九年度庭球部報



〇五人拔



四年級五番勝負



四年級對室谷先生

雪未だ鹿の子の如く残る四月一日といふに春期練習を開始したり檄によりて集まる選手拾餘名天候の不順にも關らず母校を愛する一念は嵩じて強大なる忍耐となり或は膽頂より下す烈風に砂をまく日或は陰雨紗々としてユニホームを濕す日をも物ともせず先輩諸兄の叱咤の聲に勵まされ猛烈なる練習をなしたり。

◎對滋賀師範戰

春期練習に鍛へし腕あらはさんものと選手一同但々たる眼を以て四方の敵を探り居たり時こそあれ湖南の猛者滋賀師範の挑戦いたる雀躍直ちに應戰に決す乃ち四月二十五日戰ひの幕は金城下に於て切つて落されたり。

戰 蹟

- 滋 師 本 校
- 一、齊 輪 一—三 福 永 谷
- 二、大 澤 〇—三 福 永 谷
- 三、竹 上 三—一 鹿 取 橋

勝に乗じて迫る敵軍を難なく挫きて退かす續く大將參謀を打たれたる残念色にはあらはさず、に大將の一騎打となりぬスコアの示す如く戰は電光石火正に之龍攘相打つの光景に似たり然れ共一中スピリットは遂に敵を屈服せしめぬ。

澤田西川組

大將打たれて殘兵全からず左利きの澤田新進の西川に翻弄せられて退く。

かくて本年度に於ける初頭の戰鬪に優退二組不戰一組を残して名譽ある月の桂を戴きぬ。

於縣縣下中等學校庭球大會參加之記

五月三十日彦根驛頭歡呼の聲に送られて死しても敗けて歸らじと心に誓ひたる十名の戰士は目的地指して發車いたしました。朝來天氣晴朗絶好の庭球日和。

戰 蹟

- ◎第一回戰
- 一、彦中 澤 川 三—一 膳 中
- 二、彦中 高 橋 取 一—三 八 商

- 四、竹 村 上 田 一—三 山 平 本
- 五、中 平 川 野 二—三 地 山 平 本
- 六、駒 岡 井 一—三 西 澤 河 田
- 七、河 村 吉 居 不 戰 勝

概 況

押谷福永組
先鋒を承つて出陣し敵先鋒との功名争は梶原佐々木のそれにも勝ると見えたり、かくて激戰數合軍配は我軍に舉る續く新手も又押谷のスピートある熱球福永の老巧なる活動に封鎖されてなす所なく退く。

高橋鹿取組

敵の副將部下を討れて無念やる所なく決死の形相凄しく出陣慍慍なるも高橋も亦一方の曲者よく戰ひよく攻めしも前衛鹿取、病後日尙淺く充分手腕をあらはし得ず惜しも敵に勝を讓る。
山本地平組

- 三、彦中 毛 森 利 三—一 比 中
- 四、彦中 福 押 永 谷 三—一 滋 師
- 五、彦中 山 地 平 本 三—二 八 商

◎第二回戰

- 一、彦中 澤 川 田 一—三 膳 中 川 中 邊 村
- 二、彦中 毛 鹿 取 利 一—三 八 商 福 井 部
- 三、彦中 福 押 永 谷 一—三 八 商 西 河 瀨 川
- 四、彦中 山 地 平 本 三—〇 八 商 北 前 村 川

◎第三回戰

- 一、彦中 山 地 平 本 不 戰 勝 者

◎第四回戰

- 一、彦中 山 地 平 本 三—〇 八 商 西 川 瀨 川
- 最優勝戰
- 一、彦中 山 地 平 本 〇—三 膳 中 木 池 松 戶

スコアの示す如く第二回より殆ど八商と對抗試合の状態になりましたが良く之を退けました優勝戦に於て膳中に三〇と云ふ惨な敗をしましたのは深い／＼事情があるのです紅涙を流して敗を取つた戦士の辛い辛い當時の胸中に秘められて居る或物がそれであります而し地平の上り氣味あるのを擁して善く強敵八商を薙ぎ倒した山本の凄さは敵をして顔色なからしめ全く入神の技でありました、而し敗者は敗者です潔く屈服して捲土重來以て秋期の大會を待ち校友會員諸君の期待に充さん決心寛大なる諸君希くは御寛恕を。

◎神戸主催全國中等學校庭球大會
参加之記

時は五月二十二三の兩日神戸高商に開かるゝ庭球大會に参加するため山本、地平は川島部長代理に引率せられて二十二日、午前九時目的地指して發車し而して校友會員諸君の絶大なる期待を双肩に荷ひて其日午後二時會場に着せり、左に概要を示す。

第一回戦(二十一日)

部長と共に西下したる山本、地平之を吾部を代表し吾校を背負ひて濱寺の檜舞臺に雄雄を決せんとする戦士なりき。

孤軍敵地に侵入したる兩人善く奮闘せしも連日の試験の疲勞は彼等をして充分なる活動を妨げ相擁して大松樹の下に憤死せり。

戦 蹟

徳島商業〔乾本三一彦根中學〕山本
〔松本〕地平

◎夏 期 練 習

苦しい／＼一學期の試験もすんで諸君がなつかしい父母の膝下に思ひのまゝの日を送つて居らるゝ七月二十六日より我部選手は旅館西澤に合宿して毎日々々泥に塗れたユニホームを身に固め猛烈なる練習をいたしました、早稻田大學から請川澤二氏がコーチヤーとして日々叱咤されるので選手之苦勞も一入流汗は淋漓として瀧の如く宿に歸れば身體綿の如く夕飯も取るか取らずに横になる位かくて朝は八時より夕は七時までボールに親しむ事數日こゝに絶大なる自信を得て八日一日に解散

大阪府立今宮中學〔米井堤〕二一彦根中學〔山本〕
第二回戦(二十三日)

兵庫縣立御影師範〔山口三一彦根中學〕山本
〔松本〕地平
かくて第一回戦に於て年來の仇敵今宮中學を屠り安堵の胸を撫づる暇もなく二回戦に於て御影師範と見ゆる事となり彼御影師範は斯界の霸王我々昨日今宮中學を粉砕したる意氣衝天の士、この試合如何と観客肩唾を呑んで待つ戦ひは御影のサーブに始まりぬ。激戦數合我先づ一ゲームを先んづ。されど彼もさるもの猛然として奮ひ繰り出す熱球目に止まらず我も又よく守りよく攻めこゝに一大快戦を演出せり然れ共武運は遂に我に幸ならずして残る三ゲームを與へて涙をのむ。

◎大阪毎日新聞社主催全國中等學校庭球大會
参加

金鐵も溶かさん許りの三伏の暑氣と連日の試験とに戦ひて苦しき練習をなす事數旬技成り試験終り日來りて七月二十四日彦根驛頭歡呼の聲に送られて勝たずば生きて歸らじと深く心に銘じて遠山

し各々二學期の活動を約して家路に就きました。

◎名古屋醫科大學主催全國中等學校庭球大會

参加之記

三伏の暑氣に苦心慘澹研究を重ねたる我部は押谷、福永をして醫科大學庭球大會に出征せしめたり、九月十八日彦根驛頭に於て雄壯なる激勵辭は兩人に浴びせられ彼等又一學期の我部の不運を恢復せんす大なる抱負を以て中京へと駒を進めたり戦闘は再び吾に不利なりき然れ共彼等兩人の活動奮闘は唯々讃辭を呈するのみ。

横濱商業三一彦根中學〔押谷福永〕

◎對岐阜中學校戦

時維れ天高くして馬肥ゆるの候九月十二日なりき、このおだやかな静かなる日金龜城下に於ては未曾有の激戦行はれ而して結果吾校の大勝に期せしとは相手は誰ぞ之を東海に於て名聲噴々たる岐阜中學なりしなり。
左に戦蹟を掲げて讀者と共に嬉ばん。

岐中 本校

岐中 本校

1 〔安田二二三〕毛利
〔土田二二三〕鹿取

2 〔飯沼一三三〕毛利
〔野村一三三〕鹿取

3 〔伊庭三〇〕河村
〔伊庭三〇〕吉居

4 〔伊庭三〇〕押谷
〔伊庭三〇〕福永

5 〔山北一三三〕高橋
〔矢橋一三三〕西河

6 〔日比野二二三〕高橋
〔戸谷二二三〕西河

7 〔伊庭三〇〕山本
〔伊庭三〇〕地本

8 〔伊庭二二三〕毛利
〔伊庭二二三〕鹿取

かくて優退二組を以て吾軍凱歌を挙げたり、此時の我が戦士の喜びや萬戸富者と雖も能はずとや云はん。

此戦闘に於て吾軍山本地平組、押谷、福永組の敵副將組のため憤死せしは残念なりしと雖も高橋西川組の若手が敵老將と正々堂々の陣を張り遂に其の首級を挙げしは大いに稱讃すべく毛利鹿取組の味方の讐を報せしは多とすべし、最後に校友會員諸兄の熱烈なる應援を厚く感謝す

◎大阪主催全國中等學校庭球大會
高商主催全國中等學校庭球大會

參加之記

山本組押谷組の惨敗は新進毛利組をして立たし

戰 蹟

第一回戰

東山中學〇―三彦根中學〔高橋地本

第二回戰

京都工業二―三彦根中學〔高橋地本

第三回戰

京都一商三―一彦根中學〔高橋地本

かくて新鋭の高橋、地本の刀先凄く劈頭先づ東山を零敗せしめ次いて来る京都工業も激戦數合遂に屈服せしめぬ。併して最後に洛陽の霸王京都一商と見ゆる事となりたり、敵軍同郷の士を二度まで破られて復讐の形相凄まじく我に迫る、されど吾又返り討にいたしてくれんとの決意あり此處に一大快戦は切つて落されたり。

然るに悲しいかな後衛高橋第一回に於て對東山戦に當り奮闘の餘り足指先を破りたる爲痛苦甚だしく流血は淋漓として歩行の自由を奪はれ且吾作戦を誤りしたため絶好のチャンス逃したり。

實に血涙共に下るとはこの事ならん。

雜 葉

めたり即ち九月二十日瀧口部長代理に引率せられ西下したりされど武運はあくまで我に興せず亦々黒煙都市に於て憤死したり。

戰 蹟

大阪府立瀧野中學三―二彦根中學〔毛利鹿取

◎三高主催全國中等學校庭球大會

本年最後の大會に是非とも月桂冠を得て今日までの敗辱の汚名を雪がんと出征したる押谷白髭は遠山部長の引率の下に目的地に達したり。

噫々残念運命は如何程我部に對して酷なるか。あはれ出征戦士は平和に誇る洛陽の地に於て無慘なる戦死を遂げたり。

戰 蹟

御影師範〔山口三―〇彦根中學〔押谷白髭

◎京都主催全國中等學校庭球大會
高商主催全國中等學校庭球大會

時は十月十一日京都高等蠶業學校の招待に應じて出征したる高橋地平組は明日の本校大旅行を前にしつゝ孤劍を抱いて敵地に入れり。

◎於八高縣下中等學校庭球大會
參加之記

春期に於て膳中のために名をなさしめたるを以て秋期にこそはと各戦士は私かに時期の到來を待ち居たり招待狀は來れり曰く十月十七日午前八時よりと。

當日午前六時彦根驛頭に集りたる選手の眉宇には昨日までの大旅行の疲勞は歴然と顯はれ居たり。

然れ共倒れて後止むの決心なしたる戦士は多數の應援者に擁せられ意氣陽々と敵地に乗り込みたり。

戰 蹟

◎第一回戰

一、彦中〔堀西川江〕不戦勝

二、彦中〔高橋地本〕三―〇膳中

三、彦中〔毛利福永〕三―一滋師

四、彦中 押谷三―一長農
 五、彦中 山鹿本二―三膳中

◎第二回戰

一、彦中 堀西川二―三膳中
 二、彦中 地高橋平三―一膳中
 三、彦中 福毛利二―三八商
 四、彦中 白押谷二―三膳中

◎第三回戰

一、彦中 地高橋平二―三八商 前川瀬

噫又何事か云はん唯旅行中の疲勞を醫すべき日のなかりし事を恨むのみ。敗後に當りて諸兄の熱誠なる應援を感謝するのみ。

秋期庭球例會記事

十月二十六日より四日間秋期庭球例會が催され

15 速水 加納 不戰勝者

四年

1 林 瀧本二―一 中江生浦
 3 高木 石島二―〇 目方中居
 5 大澤 平田〇―二 矢野
 7 牧野 堀口二―一 桐畑
 11 藤澤 辻井二―一 宮尾
 13 安井 居長二―一 大橋
 15 川添 岸田二―〇 森純(力)

2 杉本一―二 澤田松井
 4 松下山〇―二 前川
 6 難波二―〇 上田
 8 高橋 會根〇―二 藤宮
 10 湯本一―二 小泉
 12 富江〇―二 山田
 14 榎木〇―二 野村
 16 伏木二―〇 藤本

三年

1 伊藤 小森二―〇 竹中清水
 3 久保 馬淵〇―二 西依澤
 4 佐々木 小堀〇―二 辻郷

2 千菊 原田〇―二 成宮
 1 堀川二―一 島津

ました秋晴の高い空廣い運動場で軽くラケットに打たる、球の響なんと好い對照であつたでしよう。

二百人餘りもあつた應募者が各々獨特の妙技を揮つて下さつたので會は異常の盛況を示しました當時の速記録から勝敗を示します。

五年

第一回戰

1 山澤 川崎二―一 吉田
 3 幸嶋 幸嶋二―〇 東野
 5 西村 北村二―二 磯崎
 7 三橋 横關二―〇 杉本
 9 漢見 岡見二―一 宮内
 11 川那邊 雨森〇―二 上田
 13 猪田 杉本二―〇 瀧口

2 藤野 奥田二―〇 八田
 4 野口 加藤〇―二 池田
 6 藤澤 吉田一―二 大橋
 8 山崎 平川二―〇 辻忠
 10 花房 花房二―〇 伊吹
 12 三和 村岸二―〇 岩根
 14 辻正 松居二―〇 下村

5 野口 宮川〇―二 瀧方
 7 村田 上田一―二 橋本
 9 堤 竹原二―〇 小梶
 11 小林 朝比奈 不戰勝者

6 牧村 上野〇―二 大橋
 8 野寺 青山〇―二 杉本
 10 正谷 北村一―二 村上

二年

1 小島 宇野二―一 赤井
 3 中田 野瀬二―〇 門野
 5 松尾 蓮井一―二 小川
 7 關谷 増田〇―二 木村
 9 中川 圓城二―〇 藤本
 11 青木 宮内二―一 井上

2 宮川 吉川 不戰勝者
 4 草野 村岸一―二 渡邊
 6 寺村 西村二―〇 西野
 8 藤井 上野二―〇 岩崎
 10 藤井 橋本一―二 坂井
 12 橋 岡村 不戰勝者

1 堀川 服部二―一 藤野
 2 大西 細江二―〇 北川

藤本 一 塚本 二
田中 一 西川 二
青木 二 雨坂 三
西澤 二 脇坂 三

北川 一 岩増 二
近藤 一 西村 二
西村 二 有本 三

五年

山澤 一 居川 二
川崎 二 磯崎 三
藤野 二 大橋 三
奥田 二 藤田 三

速水 一 加納 二
松居 一 辻 二
三橋 一 横關 二
上田 一 藤井 二

四年

北川 一 高木 二
竹中 一 石島 二
松井 二 大橋 三
澤田 二 矢野 三

山田 一 野村 二
藤澤 一 辻 二
藤宮 一 藤村 二
岸田 一 大橋 二

山澤 一 藤野 二
川崎 一 奥田 二

幸嶋 一 辻 二
吉村 一 松居 二

四年

猪田 一 藤井 二
杉本 一 上田 二
高木 一 山田 二
石島 一 野村 二

三橋 一 横關 二
堀口 一 堀野 二
牧野 一 西川 二
伏木 一 藤宮 二

三年

成宮 一 伊藤 二
篁 一 竹原 二
竹原 一 不戰勝

澤 一 西依 二
下郷 一 辻 二

二年

中田 一 渡邊 二
野瀬 一 望田 二
坂井 一 西村 二
古川 一 寺村 二

中川 一 圓城 二
木村 一 藤谷 二

一年

西澤 一 堀部 二
青木 一 服部 二

藤村 一 吉田 二
不戰勝

五年

雜 記

松居 一 藤野 二
辻 一 奥田 二

上田 一 平川 二
藤井 一 山崎 二

阪井 一 西澤 二
吉川 一 青木 二

伏木 一 伊藤 二
野瀬 一 小森 二

四、三年級

藤井 一 藤野 二
上田 一 奥田 二

伏木 一 伊藤 二
野瀬 一 小森 二

二年

渡邊 一 圓城 二
望田 一 圓城 二
阪井 一 圓城 二

阪井 一 不戰勝
古川 一

三年

竹原 一 伊藤 二
堤 一 小森 二
伊藤 一 西澤 二

澤 一 西依 二
不戰勝

四年

山田 一 伏木 二
野村 一 野瀬 二
伏木 一 松居 二
野瀬 一 澤田 二

澤田 一 前川 二
松井 一 西川 二

一年

西澤 一 近藤 二
青木 一 西村 二
塚本 一 藤村 二
西川 一 吉田 二

堀部 一 大西 二
服部 一 細江 二

五年

山澤 一 藤野 二
川崎 一 奥田 二

幸嶋 一 辻 二
吉村 一 松居 二

最優勝者氏名

五年級 藤田組 三、四年級 伊藤組
一、二年級 西澤組

最後に遠山部長より優勝者にはそれぞれメダルを授與し會を終りました。

大正九年度慘敗史の稿を了つて。(地平記)

大正九年度に於ける試合も八商校庭に行はれたる縣下大會を以て名残多き終りを告げました。

願ひ見ると春尚淺き四月より秋も暮れんとする十一月にいたるまで慘敗又慘敗を以て一貫し幾度校友會員諸兄の期待に反し熱誠なる後援に裏切つたでしよう、吾等も熱心に練習もしました。苦しい研究も重ねました。併し武運はあくまで吾等をしていたげとして慘敗を以て之に報ひ來たのです。寛大なる諸君何卒選手の胸中を察し此敗戦を御容赦下されん事を。
大正九年十二月

庭 球 部 史

抑々我が部は明治卅七年、時恰も滿洲事件繁く

時縣下に覇を稱へし勁銳師範を破り遂に優勝し名譽の大坂朝日新聞社寄贈金メダルを受領せり。因に出席校は彦第一、膳所第二、彦根佛教各中學、八幡商業及び大津師範の五校なりき、かくて同年十月岐阜中學校主催東海五縣聯合大會に出演し大いに名聲を博せり。

此の如く漸々逐勝、日に月に隆盛に赴き當時一般生徒に皆見をだに顧みざりし我が部も遂に光榮ある大會優勝以來一般生徒の心を寄すもの日々多きを加へ同年十一月、一般練習新規定制施せらるゝに至れり。然れども當時例會に於ける一般出演回数僅かに三十を溢出する事五、六回に過ぎざりき。之を現今例會出演回数に比すればその悲哀慨嘆、思ひ半に過ぐるものあらんと雖も而もこれ我部例會の實に嚆矢にして、かくも比較的多數を算せしよりして之を見れば如何に最初より選手の意氣衝天然たりしを闡望するに足る。

同四十四年十月縣下中等學校庭球大會に優退二組を残し大勝す。同年十一月第三高等學校主催の近縣聯合大會に於て高橋貞太郎、奥村信三の二

忽然として日露國交斷絶し、戦端の綱は切斷され、戦闘將に猛猛を加へんとする。國家多事多忙多難の秋に當り呱呱の聲を挙げ、以來幾多の變遷盛衰を経て今日に及べり。而して記録として現存せるもの實に明治四十年以來とす。

翻翻して過去十三ケ年間を通觀大別するに即ち明治四十年より同四十四年迄を創業時代、明治四十五年より大正五年迄を守成時代大正五年より今日に至るを活躍時代とす。

先づ創業時代の難き、所謂基礎土臺より説き起さんに、我が部は他の部に比し創立日尙は淺く故に我が校運動部としては末子の感無きに非ず然れど事實に於て決して然らず。創立當時の選手の意氣見も可きものあり即ち明治四十年五月八幡商業學校々庭に於て開かれたる縣下中等學校聯合庭球大會に出演し優勝仕合まで残り大に彦中の面目を輝灼たらしめたりき、之れ實に縣下大會に出演せし濫觴なりと云ふべし。

同年十月大津師範學校に開催されたる大會に參加し、我部選手、郡田太三郎、竹原正寅の二氏當

氏、府下四條畷中學を破り勝つ。之明治四十一年迄の部史大略なり。

翌明治四十二年は可否の差もなく坦々裡に過ぎ敢て大會にも出演せざりき。語る可きは唯一つあるのみ。

そは從來我が部は我部獨特の練習により技術を磨き來り、所謂我流には何等外部よりの指導を受けざりしも當時の趨勢に鑑み將來に宿望して奮然斯界の權威早稻田大學に「コーチャ」の派遣を依頼し金石すら熔解せんとする八月十一日より一週間に亘り猛練習せり。これ蓋しコーチを受けし始めならんか。

明治四十三年四月八日、現庭球部長、滋賀縣立彦根中學校教諭遠山荒次氏部長を委嘱せられしより以來大いに選手の激勵に努め、技術及び學科共に奮勵し、他部の模範たる事を訓示せらる。同年五月十三日校長室に於て部長(水上、野球、庭球)會議を開き學科成績三分ノ二以上に居る者に非ざれば選手たるの資格を得ずの校長會議規定によりて各部共合格者僅少となりたれば、故に第一學

期成績により證認する事に決せり。

同年五月當時選手と寄宿舎生との試合をなし辛じて選手の勝ちに歸す、これ全然昔日の感なく漸く守成時代に入らんとするの徴候たり。

同年九月八商主催縣下大會に林、谷村の二氏、坂本佛中の大將を破り、最後の我が校大將中西平岩組八商の大將に當り能く戦ひしも遂に破らる。

同年十月第三高等學校主催の大會に出演し、東山中學を零敗せしめしも遂に京二中の爲め破られ、同月二十三日滋賀師範よりの挑戦に應じ、優退二組を残して大捷す、これ同年度に於ける勝利を得し始めにして終りなり。

同四十四年六月岐阜中學と本校々庭に於て試合し、大將組善戦し敵の大、副兩將を倒し、残る唯一の優退のため破らる。

同年六月十八日本校庭に於て縣下大會開催す。参加校及び當日の成績左の如し。

第一膳中、第二彦中、第三水農、第四坂本中、第五師範、第六八商、

當時當日豫定の時間九時に始め第三膳戦頃より

折柄の強風のため不慮の大敗を醸し恨を呑み歸途大垣中學に立寄り、我大將新庄、藤腹善戦よく努め敵の總軍を壓殺し凱歌を奏し旗幟を立て、悠々として引上ぐ。

越えて大正四年八月一日飯田中學校庭球場より長途遠征し來る、時に我中堅組坂東、久米組よく戦ひ優退せしも敵大將の爲め破らる。最後に於ける優退組の戦ひの時等の如きも敵將の悠々迫らざる態度と沈靜輕卒ならざる襟度とは何人も賞讃を博さざるを得ざりきとぞ。

同八月三十一日岡崎二中遠征來襲す。

同九月我が校に於て縣下大會を開催し當日の成績八商第一位我第二位……

大正五年!!

實に本年こそ我部の活動期に入らんとするの第一年なれ、即ち昨年より遠山部長の發議に因り、從來三四年の生徒中より優秀なる者を選手となせしを廢し斷然一年級より之を選び以つて基礎より選手の養成に努む、方針を取れり、故に今年も一年級より二組の選手を取る。

我が校の應援漸く猛烈なるものあり、即ち膳中生泣いて中止を申し出で漸く調停し會を閉づ、これによりて當時生徒の膳中に對視する競争心の強かりし一端を見るを得べし。

明治四十五年五月膳所中學主催縣下大會に出演せしも成績佳良なるもの僅かに一組に過ぎざりき。

翌大正二年五月廿九日我が部最初の試みたる地方小學校教師の庭球試合をなす。而して會する者十有餘人本校教諭との對抗試合を開けり、此日や天氣晴朗にして瑞氣滿溢たり。回の進行と共に愈々益々佳境より妙境に入り遂に名譽の月桂冠は小學教師の手に歸せり。

大正三年五月新學期早々水口農林學校より五組の陣容を整へ遠征し來る。これ水口農林より遠征し來りし初めなり。

我之に應じ見事彼等を一撃のもとで蹴破りぬ。當日の光榮ある我大將組の働や見る可きものありき。

同年十月此の年掉尾の遠征をなし岐阜中學にて

同七月三十一日より向ふ一週間、早大選手寺内森の二氏を聘し、下級選手の基礎養成に努め並に第二學期の活躍原動力に資す。九月八日第二學期最初の小手驗べとして米原長濱方面の俱樂部と試合をなし全勝し、來る可き岐阜大垣地方遠征を夢見て切齒扼腕選手の意氣天に冲せり。然るに恨む可く惡む可し、この絶好の遠征期を無意に終らしめんとは!!

之同方面に於ける惡疫流行のため校規の束縛により意遂行する能はざりしなり。

茲の如き周圍の事情によりて同年は辛き籠城主義を採り遠征に出づる事なく過ぎたり。

翌大正六年は昨年の籠城により鍛へし腕を世に示さんと選手の意氣旺盛にして四月新學期早々早大選手道盛氏の指導を受け猛練習に加ふるに猛練習を以つてし大いに其の技を磨けり。

然るに同五月八日八幡商業來る可き縣下大會に於ける我が手腕を探らんとして挑戦し來る。我之に應じ優退二組不戦一組を以つて大勝す。

同五月二十三日水口農林に開かる、縣下大會に

出演參加し當日我軍遠路車中の疲勞も無く殆ど全軍優勝戦に入りしも午後二時頃より細雨降り出しコート全く用に供する能はざるを以て次回の日曜に延期中止となれり。我軍三勝戦に勝ちたるもの二組、四勝戦に勝ちたるもの一組なりき。

同廿七日岐阜大垣遠征を試みしも選手多く對校マツチ最初の者のみにて敗れたり。而して技に劣れるに非ず氣後れせし者ならん。

同年六月生徒中より後援團を組織し以て選手激勵及び生徒の庭球思想の涵養に努む、即ち練習日を各日曜と定め各年級より一組づつを取ること、なす、此の如く本年は選手及び一般生徒中運動に熱心なるもの多く頼もしき傾向を示し來れり。

大正七年第一學期は平穩無事に終り、第二學期の準備として一週間炎熱燒燼するが如き夏、天下の霸王、早大選手三上、竹下の二氏のコーチを受け大いに其技の上達に孜々として努めたり。

時に九月初旬京都遠征を計劃せしも暴風雨の爲め再三成らず焦思して遂に止むなきに至る。

曩者頻々として岐阜遠征は部史に見るも京都遠

征の部誌に現るは今年が初めなり、之によりて見るも我が部の隆盛に趣き、關西の猛者を網羅せる京津地方に遠征するも毫も遜色なく、彼等を一掃せんとするの熾熾たる意氣ありしを知るべし。

大正七年十月嗚呼!!我が部に取りて何たる光輝ある熒煌ある且つ特筆大書以て記念す可き月ならずや。

麒麟兒猪田は名古屋第八高等學校主催東海聯合大會に出演し前年の優勝校愛知一中を一蹴し遂に數多き中にも群を抜き類を絶して優勝せり。

當日の戦況を示さんに第一回戦に於ては可成の苦心の跡歴然たり。然りと雖も猪田の熱球よく功を奏し遂に敵をして成す術なからしめたりき。即ち

第一回戦 岡崎師範二二三彦根中學

(猪田地中)

第二回戦 大垣中學一三彦根中學

第三回戦 岡崎中學〇三彦根中學

最優勝戦 愛知一中二三彦根中學

最後の愛知一中との優勝戦に於てはゲームは三對一なるも敵も當時運動と云へば直ちに愛知一中を思ひ起さしむる程の剛の者!! 敵軍防戦よく努

めジュースを重ねること數回なりしかど猪田の猛烈なる攻撃と且つ前衛地平の金城鐵壁然たる堅實なる守備力に敵し難く遂に涙を吞んで胃を脱げり。噫!!かくして名譽の優勝の二字は永に光榮ある選を受けて、金龜城頭に高く、輝灼として我が彦中を飾潤せり。當日我校出身の八高生仙波、石田、長尾、吉田の諸氏の招邀款待實に至らざるなく目出度く喝采の裡に凱歌を奏しつゝ引上げた

り。茲に謹んで先輩並に諸兄に謝意を表す。彦根停車場に折柄之を歓迎するもの無慮二百人、當時生徒間に如何に優勝にあこがれしかを見るべし。

此の榮ある優勝を記念すべく同二十六日盛大なる祝勝庭球大會は本校庭に於て開催され會長春日校長以下職員及び全生徒出演しコート三ツを使用し近年蓋し稀に見る盛會なりき。出演者總數三百八十人にして當日各年級優勝者左の如し。

五年(藤井(登)島津) 四年(藤井(健)富田) 三年(今堀(鹿取) 二年(成宮、垣見) 一年(安藤、山田)

同十一月三日大阪高商主催庭球大會に藤澤白髭

出陣し第一回和歌山中學を破り次に八尾中學を全敗せしめ第三回に於て惜しくも中國の勇岡山師範に破られたり。此の如く我部の名譽日に月に盛にして各地方大會及び新聞社會等より續々として出演狀の多きを加ふ。

大正八年昨年の猪田組大將となり行く所敵なく恰も無人の境を行くが如し。

先づ新春早々膳中に六組を以つて遠征し、優退二組、不戦一組を以て大捷せしを、ふり出しとす尙ほ當日佛中と戦ふ可き筈なりしも佛中方言を左右にして敢て應せず空しく終りぬ。之蓋し我軍と膳中の午前の試合を見て逡巡せしならん。

此に於てか我部は新に部歌を作製し、一般生徒も亦之に和し高唱するに至れり、而して選手は練習前に一同之を唱するを常とせり。

今左に部歌を記載せん。(ハドソン灣の譜)

一、金龜の御城を仰ぎつゝ、

鐵腕きたへし赤鬼の

彦中健兒の血はほごばしり

此處に立ちたるテニス團

二、金龜城下の関聲

天下の粹ぞと仰がれて

琵琶の湖上に秋月高く

輝く選手のそのいさは

同四月廿七日大垣中學より五組にて遠征し来る。即ち本校庭に於て之を受け優退二組、不戦一組を以て大勝す。

同五月十一日本校々庭に於て縣下大會開催され天候や、險惡なりしを以て二コートを使用し、豫期の如く我軍最初より優勢にして應援の熱極度に達し將に佳境に入らんとせし折、惡むべし、降雨の爲め中止のやむなきに至れり、時に後れる者僅に八商の三組と我校の五組のみ、他校（長濱農學、水口農林、膳所中學、滋賀師範、比叡山中學）は已に敗北して去れり、即ち八商と六月一日の再會を期して終りぬ。六月一日我校コートに於て八商と戦ひ武運拙なく恨を吞んで彼に月桂冠を與へぬ。

同二十五日神戸高等商業學校主催の全國優勝大會に出演し第一回に和歌山中學を破り、次に市岡

中學に勝ちしも第三回に於て當日の優勝校今宮中學に破らる。

七月廿五日庭球界の檜舞臺たる濱寺大會に出演せしも場所慣せざる爲めか一回戦に岡山中學に破らる。而し庭球部創立以來、本大會に出席せし嚆矢とす。

八月一日北陸關西大會、四高の主催にて同校コートに開かるや之に参加し、初日高田中學を破り同二日北陸の剛者、金澤師範を三組共零敗せしめ優勝戦に入り、大いに意氣を擧ぐ。同三日本會の優勝校京一商と初優勝戦を行ひ彼に先んじ山本、伏木（中堅）優退せしも遂に敵大將戸羽市田のため惜しくも破らる。當日選手中病人ありしかば蓋し振はざりしならん。因に出演者左の如し。

猪田、白髭、伏木、園、押谷、地平、山本（補）

九月廿四日我部正選手五組奉公團に於ける縣下大會に出演し副將猪田伏木組優勝す之大正五年以來の立派なる成績にして、實に空前の事とす。

同廿九日縣下大會優勝祝賀大會と彦根町丹下氏の寄附により城山御殿跡に竣工したる新コート開

きを兼ね全校舉つて盛大なる祝勝庭球大會は新城山コートに於て開かれ之によりて我部大會は二回を數ふるに至れり。尙當日の各年級優勝者左の如し。

五年

同十月五日三高主催の大會に出演し第一回に京都三中を仆し第三回戦に於て神戸高商に於ける仇敵今宮のため再び敗北す。

十一月我部多年の懸案たる洛陽遠征を試み曩に四高に於ける怨敵京一商に再敗し、京二中とは敵人員不在の爲め中止し、平安に大勝す。然れども京一商との敗後選手一同、協力一致大いに鍊磨に努め来る可き新學期の大活動を私に期しつゝ、かくして活動の大正八年も終りを告げ多年我部の重鎮として輝灼たる好漢猪田白髭は部を去る事となり。噫獅子兒！永に祈れ、我部の益々多幸隆盛ならん事を。備考大正九年度部史は之を部報によりて知らるべし。噫此く光輝ある我が庭球部史を終るに當り、一の感想をも記する所なく此の稿を脱するは予の如何にも残念に感ずる次第なれども

如何せん病魔の爲め且綿切も過ぐるの故を以てこゝに一言諸君に謝す。 大急行押谷七郎記 敦賀商業對本校

（第一回）原田竹中三振、川崎左翼飛球▽川上四球原田三振、原田四球杉森一飛山本一飛。

（第二回）下村大橋三振原四球に出で二壘盜奪に刺さる▽魚野二越安打木下遊撃に安打し石倉三振後木下二壘を盗む時魚野生還澤田三遊間安打川上右飛に止む。

（第三回）前川三振、若林中堅安打し松本三振、後盜みしが計られて刺さる▽原田投匍原田三匍杉森三振。

（第四回）原田一壘失に二壘を奪ひ竹中の投匍後盜壘し川崎四球に盜壘、下村儀打して原田川崎生還、大橋三振に殪る▽山本四球魚野右飛山本盜壘に刺され木下四球に出でしも石倉二匍。

（第五回）原三振、前川三匍、若林中堅安打に出でしも盜壘成らず▽澤田三振、川上投匍、原田凡退す。

（第六回）松本三振原田三振竹中投匍▽原田四球

を制し盗まんとして殺され、杉森投捕失に出で盗み山本の安打に還り、魚野死球木下投捕に山本生還、石倉遊捕。

(第七回) 川崎三失に盗壘せしも下村遊捕大橋遊飛に空し▽澤田遊捕川上遊捕原田三振。

(第八回) 原、前川、若林三振▽原田二遊間安打し二壘にさゝる杉森三失山本遊失に出でしも魚野木下投捕に退く。

(第九回) 松本三振掠三捕失に出で盗壘して刺され弁中三振萬事休し四A對三の接戦に破る。嗚呼無念!!

打數廿八	上弟兄森本野下倉田田中崎村橋	川林本	打數廿六
安打	三川原原杉山魚木石澤	掠竹川下大原前若松	安打二
犠打	〇	遊一投捕中三二左右	捕左投遊一三二右中
四死球五	三振	五球審弁中氏壘審村井氏	三壘打山本

岐阜師範と戦ふ

時は正にウラ暑い五月三十日、日曜を幸ひ岐阜に向つて遠征の途に上つた岐阜師範の校庭に於て戦ふ事になつた岐中とも戦はんとせんが都合に依り試合は去る日の庭球部の怨晴さんとの勢は淡

業生の野次團はブン／＼怒り出した。

(第三回)表 川崎の空打して退き大橋ゴフライに死し原三振して交代(得點〇)。裏 松永三ゴロに死す、青谷死球を得、山本の三ゴローバの安打に三進む坂井三ゴロに満壘となり野次團一しきり騒ぎ出す、林ゴロに満壘となり青谷の投球に觸れて花と散る満壘なるに哀れや堀口のゴフライを取られて殘壘(得點〇)。

(第四回)表 前川三振若林續いて三振し清水の三ゴロの軟打に死して止む(得點〇)。裏 加藤小野相並んで三振武藤四球松永死球に出でたるも青谷の三振に退く(得點〇)。

(第五回)表 松本三振掠田三ゴロフライ失に生き三BIBを盗みしも竹中川崎の三振に止む(得點〇)。裏 山本三振坂井三ゴロに倒れ林の三振に休す(得點〇)。

(第六回)表 大橋ゴロして三Bに死し原三ゴロライのカーブして安打となり三Bに至る前川續三ゴロに出でたるも三B手よく之を取りて三Bに送りダブルブレイとなりて交代(得點〇)。裏 堀

ら曇りの好野球天氣の午前十一時十分戦の火蓋は強く切つて放された戦況の概略を記さん我軍先攻。

(第一回)表 劈頭掠田脆く三振して倒れたるに發憤し竹中三B間に安打して難なく三Bを踏む續いて強打者川崎の三ゴロの熱球には三B手之を損じ三に送りしも遅し、大橋の三ゴロフライ失に生き満壘となる原のバンドに竹中生還、原生きてまた満壘折柄捕手の逸球に川崎生還前川のバンドに大橋生還して前川殘る原本壘を盗まんと焦りて投手に刺され若林の三振に交代(得點三)。裏、我選手元氣旺盛各位置を蟻も通さぬ守り方山本投手の軟球せしを得たり三Bゴロに三Bに散り坂井ゴロフライに倒れ林三Bゴロに續いて死す(得點〇)。

(第二回)表 敵目覺めたるにや清水三ゴロに退き、松本四球を得たるも掠田竹中の三振に殘壘(得點〇)。裏 堀口ゴロに満壘となり小野武藤の凡打に止む(得點〇)觀覽席に商人風の男、大聲を擧げて「昨年大垣の恥を忘れたか」と野次られて岐師卒

口ゴロフライに死す、加藤ゴロ失に生き投手の暴球を三B手失して三Bに進み三Bを盗壘す、小野三振して後武藤の三ゴロフライオーバに加藤漸く生還して一點を擧ぐれど松永の三振に武藤殘壘(得點一)。

(第七回)表 若林三Bゴロに出で三Bに倒れ清水三ゴロ失に生き三Bを得たるも松本ゴロフライを三Bに送られて死す(得點〇)。裏 青谷三振、山本強打したるもバンドしてゴロより三Bに送球して死し坂井ゴロして凡退(得點〇)。

(第八回)表 掠田三振して退き竹中三ゴロフライに倒れ川崎の三振に無爲(得點〇)。裏 林三ゴロに死し堀口加藤續いて同じく凡打して退く(得點〇)。

(第九回)最後の戦いで兩軍共に非常に緊張して來た然し共に無爲であつたのは殘念なり。表 大橋足下に打落して三Bに消ゆ、原三振し前川死球に出でたるも若林の三ゴロにて三Bに花と散り此處に戦途は盡きぬ、裏小野ゴロ失に出で其の焦球の逸して三Bに至る武藤松永三振し青谷四球に立ちしも山本の三Bゴロに之又三Bに朝の露と消え去

り岐師軍萬事休し榮冠は我が部選手之れを握れり
時正に二時三十分、中食も皆忘れられてゐた、食
後岐師範先輩の諸兄と一時間餘り戯れた、結果
は不良然し面白かつた事は抱腹絶倒位の所就中敵
に投手が幾人もあつたと云ふことゝ、バッチを穿
いてゐたことは殊に面白く感ぜられた。

岐師範對本校のメンバー及び成績

本校
山坂林堀加小武松青
本井口藤野藤永谷
IB P SS IB CF RF IIB IIB LF

本校
原松竹前若清水崎大藤藤若
C SS P IB IIB IIB CF RF RF SUB SUB
田中崎川大原前林若清水松藤若

打	數	得	點	安	打	壘	打	盜	壘	三	振	四	死	球
岐師	二	二	一	三	四	二	三	一	一	一	四	二		
本校	一	八	三	四	二	三	一	四	二					

岐師卒業生對本校メンバー

早川瀬中東橋田島藤後山葉某某
IB IIB P SS LF RF CF IIB C P P P

明くれば絶好の天氣愈々愛知一中と戦ふべく一
中へと急いだ時は正に七月四日午前十時より本校
先攻にて開始。

(第一回)表 棕田悠然とボックスに立ちボール
を選んで強くバウンドせしめよく敵之を取り
て一壘に斃る、松本三振川崎 IIB フライを取られ
て交代(得点〇)。裏 此の日川崎投手は病氣にて手
腕を發揮する程丈夫でなかつた其の故にや敵は得
たりとばかりに打ち捲り出した劈頭宅間グララン
ダ一の熱球に CELE 間を抜いて三壘打に出で大久保
の IIB 方面にヒットして宅間生還岩田死球に現れ捕
手逸球に大久保 IIB を得て本壘を盗る日比の軟打
IIB も手の失に生き岩田生還、後藤凡退せしも置塩
のオーバして日比を還らし IIB IIB を盗み捕手の逸
球にまた生還、下山三振堀尾のオーバに立ち IIB IIB
を取りしも杉山の三振に止む。(得点五)

(第二回)表 竹中原凡打に斃れ前川の三振に止
む(得点〇)裏 我が軍憤を發して守る宅間 LF フ
ライに大久保三振に岩田 IIB フロに三者相續いて
引込む(得点〇)。

本校 原松竹前若清水崎大藤藤若
IIB LF P IIB C RL SS IB CF SUB SUB
岐師範卒業生の先生と生徒との試合は釣合が
良かつた、殊に敵の投手と我が投手我が投手の前
へ先生が立つた時の面白さ、痛快だった。(〇〇生
記録)。

中 京 遠 征

七月三、四日途中大垣中學を倒して中京に入る
べく旬日前より萬々準備は整へられた三日午後熱
烈なる應援團の諸君の萬歳聲裡に感謝の涙を残し
て何時しか彦根の地を離れ約二時間車中に揺られ
大垣に下車し中學に急ぎ型の如く戦の準備バッテ
イングに餘念なき折しも俄然一天黒雲を提げて襲
來し暗くなつたと云ふ間もあらばこそザア、と
車軸の雨を浴せ掛けた。數時怨の眼に時を移せし
も猶歇まず漸にして歇めば時既に遅し己むを得ず
戦は次回に譲り中京に乗込んだ。豫定の宿につい
て明日の作戦を議し勝利と天候を祈りつゝ寢に就
く。

(第三回)表 大橋清水若林相並んで三振して退
く(得点〇)裏 日比 IIB 間に安打せしも FO 手よ
く之れを捕して IIB に送り IIB を過ぎて IIB を盗らん
とするを IIB に送球して刺す後藤のヒットに出で
置塩の IIB フロに IIB を盗壘し下山機打に生還、堀尾
LF フライに斃れて交代(得点一) 投手竹中は二回
より立ちたり。

(第四回)表 我が軍愈々焦る棕田のバウンドに
死し、松本バンドして退く川崎 IIB フロの安打に
出で IIB を盗壘し投手の牽制球を二壘手逸して FO
手また失したるに乘じ韋駄天走りに生還、漸く此
處に一點を挙げたれど竹中の LF フライを捕られた
るに止みぬ(得点一)裏 杉山四球宅間四球を得大
久保バンドして生き岩田、杉山を生還させんとバ
ンドせしもならず却つて本壘に刺さる日比 IIB バ
ンド失に宅間生還し満塁續く後藤置塩の凡退に残
壘三(得点一)

(第五回)表 原三振前川 IIB フロに消え大橋の三
振に止む。裏 棕田投手に立つ之恥の上塗り、下
山四球堀尾死球杉山凡退、宅間大久保岩田軽く打

つて日比の犠打等に依つて生還日比斃れ後藤四球に出でもIIBに刺されて終る(得點五) 投手棕田の妙なモーションは期待せし觀衆にラーフインストックを深く與へた試合はドロンゲームとす。(十二對一)

當日のメンバーは左の如し。

愛知一中	間宅大	田比後	藤置下	山尾	杉山
CF	RF	SS	P	C	IB
					IB
					LF

本 校

棕田	松川	竹原	前大	清水	若林
CF	P	RF	SS	IB	RF
					CF
					C

午後二時半より同校庭に於て明倫中學と戦ふ本校先攻。

(第一回)表 棕田をゴロ一壘失に生きたIIBを盗らんとし捕手の送球に斃る松本三振竹中ゴロに死(得點〇)裏 此の時投手川崎は病氣にて出場せず牛田ゴロフライに死す小笠原四球に出でたるも投手の牽制球に觸れて一壘に退く菅ゴロフライに止む(得點〇)

(第二回)表 前川IIBグラウンダーして其の暴球

(第四回)表 竹中前川軟打して去り原四球に出で二壘を盗まんとし死す(得點〇)裏菅安藤加賀凡退(得點〇)

(第五回)表大橋IIBゴロに清水の三振に若林の凡打に交代(得點〇)裏松山IIBゴロに死し佐藤三振永坂ゴロ失に生きたIIBを取り若山のPゴロに生還、牛田IIBゴロ失にIIB出でIIB取らんとし投手の送球を二壘手逸したる菅のPフライに止む(得點三)

(第六回)表川崎IIB間ライナヒットしたるも棕田のフライと松本のバンド失と竹中のPフライに斃る(得點〇)裏安藤三振加賀Pライナヒットして松山の犠打に生還し松山生きたIIBを取り佐藤のPゴロにIIBを得捕手の逸球に生還せしも永坂四球を取りて二壘に進まんとし捕手の送球に斃る(得點二)

(第七回)表前川ゴロ失に生きたIIBを取り若林ゴロの球がIIBに逸したるに生還其の間原四球してIIB IIBを得たりしも清水の打球にて投手に殺さる 若林Pフライにて清水スタンディング(得

に二壘に至りIIBを盗り本壘に入らんと焦りて挾撃せられ本壘に刺さる原バンドに生きたIIBを取りてIIBを盗まんとし挾撃せられ三壘手に斃る大橋三振して交代(得點〇)裏 安藤四球に出で後藤打者に依つて生還加賀バンドに生きた松山のバンドにIIBを得IIBを得んとし捕手に刺さる松山牽制球のパスにIIBを得IIBを取りて佐藤のPゴロの球にてIIBに刺さる、佐藤永坂の四球に送られ若山の犠打に三壘に進み牛田の四球に送られて生還せしも小笠原の凡打に止む(得點二)

(第三回)表 清水四球に出でたるも若林のIIBゴロにフォースアウトさを若林の手の暴球にIIBを得三宅のヒットに三壘に進み牽制球の逸に生還、棕田四球を得たるも松本の三振に交代(得點一)裏川崎投手に交代菅四球を得IIBに進みをIIB盗む、折柄加藤のゴロ失に生還其の間安藤四球に出でたるも本壘を盗まんとし刺さる、松山四球に生きた永坂三振し若林のゴロ失とIIB手の逸球に加賀松山生還牛田四球に小笠原フライ失に出でたるも佐藤本壘に死して終る(得點三)

點一)裏若林IIBバンド失して捕手の暴球にIIBを得三壘を盗る進んで本壘を取らんとしIIBの送球に斃る牛田PゴロIIBに去り小笠原バンドに生きたるも菅のIBフライに止む(得點〇)

(第八回)表川崎三振棕田四球に出で松本バンドして死し竹中のIIB バウンドに棕田生還、前川IIBゴロ失に生きた原四球したるも大橋の三振に止む(得點二)裏 安藤IIBゴロの一壘手失に残れるもIIBに散る加賀Pフライに松山Pフライに交代(得點〇)

(第九回)表 清水四球に出で若林のゴロ失にIIBを得たるも川崎のPフライを取られてダブルプレーとなる棕田三振して萬事此處に休す、時正に四時五十分(得點〇)A

左に其の戦績を記さん。メンバー

明倫中學

牛小	田原	菅安	加松	佐永	若
SS	CF	IB	C	P	RF
					IB
					LF

本 校

棕松	竹前	原大	清水	若林	川三
CF	LF	P	SS	IB	IB
					RF
					C

明中	打數	得點	安打	打機	打盜	壘三	振四	死球
本 校	二二	一〇	六	四	五	三	一〇	六

今回中京遠征は應援團諸兄には多大なる期待を持つて居られたにも拘はらず其れを水泡に歸せしめたるは謝すに其の言葉を知らず唯々部員一同涙を流して謝すのみ、また前日は遠路わざ／＼大垣迄應援下されし諸兄には熱誠なる愛部心の迷りと深く／＼感謝して已まざる次第なり(〇〇生)

京津大會參加之記

京津大會の第一日第四回膳中と戦ふ事は數日前に解つた早くから先輩の諸兄に大なる期待を以て迎へられた、愈々七月二十八日は來れり此の日午後四時十三分球審小林壘審和田の兩氏の審判の下に本校先攻にて忽ち戦端は開かれた。

(第一回)表 椋田三振に竹中三三番に退き川崎cフライは敵の手に取られて交代。裏 左投手横田BIBを抜いて悠々一壘を獲得しBを盗み捕手のハンブルに三壘を得たるも牽制球にて刺さる本城cフライに近藤の凡打に止む(兩軍無爲)

刺さる。兩軍〇)

(第五回)表 若林三振清水凡退藤宮ヒットして一壘IBを得んとして死す裏望月四球し青木の四球に進み横田の凡打に生還青木IBに横田IBに刺され本城cゴロして捕手の失にIBを得IBを盗みたるも近藤のcフライに止む。(得點一一)

(第六回)表 椋田三振竹中四球に出で川崎のcオーバにIBを得IBを盗まんとして捕手の送球斃る大橋凡退裏饗庭IBcゴロ失に生しBを盗み投手ポークにIBを得坂口IBcゴロに出でIBを得、北村捕手フライに退き松原三振す望月cゴロ失に饗庭坂口牛還青木四球せしも横田のcフライに止む。(〇一一)此頃觀衆の罵る聲はいたく聞え中に次第に歸る者さへ見え出した。

(第七回)表 哀れや前川の三振と若林の三振は原のヒットも功なく焦りてIBを得んとして斃れ此處に休す、裏本城cFオーバは三壘打となり近藤のヒットに生還B牽制球は逸してIBを得たるも饗庭のIBcゴロに死す饗庭捕手の暴球にIBに生き坂口cゴロのIB失して生還し規定に依りコール

(第二回)表 大橋凡退前川IBcゴロ失に出で原のcフライ安打にIBを得若林の死球にIBに送られ清水の機打に生還せしも原IBより本壘を盗まんとして挾撃せられイレガリブレーとなつて交代裏饗庭三振したるは遺憾なり捕手の失策に生けり、IBを盗み坂口のcゴロの死に生還北村BIBcゴロヒットに出でIBIBを易く得て本壘をも續いて盗る松原四球して之れまた易々と無人の境を行くが如く生還望月また／＼四球に出で同じくIBを得んとして挾撃せられて死す、青木IBcヒットに出で挾撃を失に免れIBにまた挾撃せられcF手に依つて刺殺さる。(得點一一三)

(第三回)表 藤宮四球に出でIBに急ぎて死し椋田竹中の三振に早くも交代裏 横田本城の死後近藤ヒットして捕手のミスにIB又IBを得たるも饗庭の三振に止む。(得點〇)

(第四回)表 川崎死球に出でIBに捕手の失に生き大橋のIBcゴロの死にIBを得たるも前川原の三振に無爲裏坂口ヒットして北村cライナに死し松原三振す坂口其後IBIBを得んとして捕手の送球に

ドゲームとさる。我が選手一同及部員は涙の出づるを知らず。(得點〇一一)

當時のメンバー成績は左に

表點得	勝中	同數	本校
0	1	2	3
1	2	3	0
0	4	0	1
0	5	1	2
0	6	2	7
0	7	2	8
1	8		

中	膳	勝中	同數	本校
打得安機盜三	打打打打打	4	0	1
數點打打打打打	數點打打打打打	3	1	1
0	1	0	1	1
0	0	2	0	0
0	0	2	0	0
0	0	2	0	0
0	1	0	1	0
0	1	0	2	0
0	1	0	0	1
0	1	0	0	2
2	2	8	6	0
8	4	5		

中	産	勝中	同數	本校
打得安機盜三	打打打打打	0	3	0
數點打打打打打	數點打打打打打	1	1	0
0	0	0	0	0
0	1	0	2	0
0	0	0	0	3
0	2	0	0	1
0	1	0	2	0
1	2	0	0	0
0	0	0	0	2
1	0	0	1	0
4	9	0	4	1
1	1	2		

當日應援團諸兄及先輩諸兄の熱烈なる聲援は骨隨に徹し申候唯々感謝するに餘り有之候敗因に就

いては改めて申すまでも有之まじく候はん前記事
を御精讀ありて部員選手一同御叱咤被下候は、難
有謹んで御受け仕る次第に御座候 敬白

(○○生)

八幡商業と戦ふ

前夜の夕立は裏切られて期待された上天氣とな
つた。敗けちやならない怨敵八商軍だ挑戦の元氣
で八商軍は我がグラウンドに現れた我が軍も應援
團の激勵に敗げんぞ是非勝つと球審竹中、壘審村
井の許に午後二時半より兩虎が戦ふやうになつた
體育俱樂部大會前と土曜日の故稀なる應援團に圍
まれて嗚呼英雄が——にグラウンドは緊張した八
商先攻。

(第一回)表 澁谷右翼飛球をまどはし二壘打と
なし神野のバンドに生き盜壘して二三に據る時福
島遊匍に澁谷生還辻の投匍に神野歸り長谷川遊匍
(裏)川崎もろくもたはれ竹中外野に大飛球を揚げ
しも中堅手危くも握る、下村左翼安打に出で牧野
撰球四球を得しも大橋三振に終る。

(第二回)表 中野左翼失に三壘打となり村上の

遊匍に歸し辻頑張りしも三振し勝見中飛失に生き
しが澁谷三振(裏)若林遊匍に殞れ前川四球に出で
しも清水の遊匍に封殺原死球に出でしも川崎無
爲。

(第三回)表 神野遊匍福島死球辻中飛失長谷川
三振後中野三越安打に二死満壘なりしも村上遊匍
裏竹中遊匍下村三箇牧野三振に止む。

(第四回)表 辻三振勝見左翼安打澁谷左直失に
出でしも神野遊匍福島投匍(裏)大橋遊匍に一壘に
消え若林三箇暴投に二壘を占めしも盜壘に刺され
前川三振に未だ機至らず。

(第五回)表 辻四球長谷川一飛中野遊匍に辻封
殺中野二三壘を連盜して村上の遊匍に生還せしが
辻右翼飛球(裏)清水四球に出でしが原の遊匍に封
殺河崎四球に盜壘し竹中のバンドに原生還し下村
の三振に終る。

(第六回)表 勝見三振に殞れ澁谷四球に出でし
が神野投匍後福島三壘安打辻四球に出でしも長谷
川三振し我軍危機を脱す(裏)牧野三箇に惜しくも
一壘に花と散り大橋投匍に若林三失に出でしも前

川三振に無爲。

(第七回)表 中野中堅安打に出で村上の三箇に
送られしも辻投手バンドに死し走者三壘にありし
も勝見の遊匍、裏清水原共にあはれ三振し河崎の
右翼フライに無爲。

(第八回)表 澁谷右翼安打に出で二壘を盜み神
野三振し福島三壘右安打に出でし時俄然辻三越安
打して澁谷生還し長谷川二箇して我軍愁眉を開く
(裏)竹中三左安打し直ちに盜壘下村三振せし時猛
然三壘を盜む長谷川三壘に高投して球は觀覽席に
入り悠々本壘に向ひたるに勝見左翼手球を捕手に
送りタツチンアフトセーフの暴聲盛んなりしも球
審セーフを宣し八商方自心なきが憤氣し棄權して
歸り九對〇を以て勝つ。

メンバー左の如し

(球審 竹中氏
壘審 村井氏)

三壘打 中野
二壘打 澁谷

本校

IF 川崎 中野
P 中野 村井
SS 下村 大橋
cF 野村 若林
IB 橋本 前川
C 林 清水
IB 川 原
RF 水
IIB 原
IIBB

八 商		八 本 校	
cF	澁谷	打撃數	得點
IIB	神野	二五	二(九)
IB	福島	三六	四(零)
P	辻		
G	長谷川	安打	四死球
SS	野村	九	五
IIB	上村	四	一〇
F	辻		
RF	勝見	六	三振

敦賀商業對本校

北陸の豪雄敦賀商業と廣々茫々たる敦賀練兵場
にて戦ふ我軍先攻。

(第一回)表 竹中脆くも三振し原三箇川崎三振
裏川上四球に出るや否盜みて二壘に進みしも澤田
三振杉森投飛川上三盜して刺れて終る。

(第二回)表 下村牧野相並んで空振した、適應援團
及投手は元氣づいた見るや大橋遊擊に直球を飛ば
せしもうまく捕ふ(裏)牧野奮然として投手板に立
ち原田山本を凡打に終はらし魚野を三振せしむ。

(第三回)表 前川三振清水一箇若林遊に終る(裏)木
下脆くも三振石倉續きて三振原田三振なして捕手
の失に出で盜壘せしも川上二壘に直飛してやむ。

(第四回)表 竹中四球に出で原投匍失に出で川崎左

翼三壘打によりて竹中原生還、下村牧野死後大橋左中間二壘打に川崎生還、大橋三盗なして刺さる(裏)澤田二失に出で盗壘なし杉森中飛ばせしも原田三振山本左飛にやむ。

(第五回)前川清水三匍若林三振(裏)魚野中飛木下一匍石倉二直に終る。

(第六回)竹中三匍原三失に出でしも川崎下村三振。(裏)原田中飛川上左中間二壘打澤田又二失に川上生還杉森右翼安打に澤田生還杉森二壘を盗まんとせしが○の好投に刺されたり此の時壘審アウト球審セーフを唱へしより紛擾起りおさまらず我が軍不公平を憤り已むなく棄權して歸彦せり。

敦 商

川澤杉原(山)魚木石原(前)
上田森田本野下倉田

本 校

竹原川下牧大前清若
崎村野橋川水林

敦 商
本 校

打撃數	得 點	安 打	四死球	三 振
二二	二	二	一	六
三	二	二	一	七

彦根體育俱樂部主催岐滋聯合野球大會
京津大會後晝夜猛練習に猛練習を重ね校友會諸君先輩諸兄の喜顔に報ひんと死なんばかりに練習をなした時は來たりけり、九月廿三日絶好の野球天氣だ本校校庭の賑やかさあ野球でなくちやこれだけは賑はしくないでしやう應援團は日々準備に忙はしく萬般の整理をして今年こそわ旗を取つてくれと泣かんばかりに激勵さる選手は立つても座はつても居られない必勝を神に祈つて居つた意氣天に冲する程だつた。

戦はんかな時は來ぬ第一回戦は恨み深き水上界の覇者滋師だ選手はこれからだと定刻を待ち居るにも滋師現はれず一方應援團はこれからだくと待ち遠しく思ひしに滋師も赤鬼と聞いてか金棒無くてか遂に棄權した満場意外の驚きをあたへた。

愈衆人渴仰の優勝戦は本縣の龍攘虎搏の大活劇は恨適八商軍と相見ゆることになつたいざ名譽の月桂冠はいづれにか山の如き觀客は此の試合こそ見落すまじと十重廿重に人垣を築き場内いやが上

に緊張した兩軍の應援隊は殺氣立つて一壘側と三壘側に別れ口も破れんばかりに熱誠なる應援をさる突然小一高對三高戦の如く選手は必勝と敗けては恥だと戦は終初熱球的昂奮を以つて球審三高選手山根壘審京大生内藤兩氏のもとに一時半より火蓋は開かれた、然し勝負には一寸とも拘泥しない所は一高と三高の如く思はれて堪らない。

(第一回)本校先攻下村バットを固く握つてボツクスに入ると我が應援團は戦かはんから時來たれりと云ふ、敵軍八商の應援は成算我にしかとありと互に頑張る見るや下村外野に大飛球をあげしに外野手うまく捕ふ竹中遊匍に二死となり川崎憤然と起ち得意の猛打を振りしや左翼越二壘打を打ちしも牧野中堅飛球に無爲となる(裏)中野三振澁谷遊匍長谷川三振を潔す。

(第二回)先鋒大橋二壘打をはなち若林投手を失せしめ二三壘を陥しる時前川バンドに大橋最初の生還をなす、清水四球を制し盗壘し又もや二三壘に好機を作る時原巧くバンドして若林生還下村三振に終る(裏)中野先づ二壘越安打に投手牽制暴投

に二壘に進み辻の投匍後三壘を盗み福島の一匍大橋本壘に惡投して生還をあたへ福島二壘に達せしも村上投匍勝長三振に殘壘この時我が應援團は大鼓を打鳴らして痛快ドン／＼とやると敵は日の丸の扇を揚げて互に喜ぶ。

(第三回)竹中左翼にライナーを飛ばせしも捕らはれ川崎三振後牧野三壘安打せしも大橋一匍に止む(裏)辻二壘後の安打に出で神野三振後盜壘せしが澁谷遊匍長谷川三壘に立往生。

(第四回)若林遊匍前川三振清水三匍に振はず(裏)中野遊匍失に出で辻の三振後盜壘して殺され福島投失村上二越安打に好望なりしも勝見振はず投匍に空し。

(第五回)原遊匍下村三匍竹中左翼飛球、裏辻左飛神野澁谷三振す、層を重ねることに白熱的になりぬ。

(第六回)川崎遊失に出でしも牧野一匍に併殺さる、大橋中堅安打し得點を期待せしも若林前川内野凡打に空し、裏長谷川四球を選び盜壘成りしも中野一匍辻匍福島三振して止む。

(第七回) 清水原三振せし故我がベンチは憂色におはれた、然し下村四球に出で二、三壘を連盗してチャンスと見し時竹中三壘に猛打して一壘に向つて死力を盡してスチールした、その巧みさ驚くべきや壘審球セーフを宣す、すると下村生還す我がベンチは活氣横溢す猛打者喜面をおびバツタを持つて立つたかと思へば中堅に大飛球を飛ばして三壘打と待ちしが澁谷外野の花形好捕す(裏)村上二失勝見投捕に死せし時村上二三壘間に狭殺され辻四球を利せしも神野遊飛して止む。

(第八回) 八商軍は得點を競ひせきたつ妖雲暗澹として八商ベンチを罩めて光景悲絶を極む辻投手奮然として頑張る牧野遊捕大橋遊撃失に出でしも若林外飛二死となりしも前川清水の選球に満壘となり好機を逸すまじと原切齒して三壘上を抜く絶好のヒットと思ひしも運なく球はカブーしてファウルラインより二、三寸のところ落ちてツイウストライク三ボールとなりし時投手辻今こそはと妙技を盡して三振さす原悄然としてバットを引づも歸へるさま誠に可愛想だ。(裏) 八商軍牧野

の球になれたるにや澁谷長谷川安打し中野の投捕に神野三壘に死し辻三壘飛球に本軍愁眉を開くものありしも福島タイムリーを飛ばす長谷川生還川崎本壘に好投せしも若林此を逸し中野生還す、適軍應援今迄はもう駄目と涙にくすばりしがこの時は躍り立つて喜ぶ村上遊捕に死せしも雀躍して守につく。

(第九回) 我が軍憤激やる方なく最後の自重をなす、應援團からはラツキーセブン、ラツキーセブンと喝らした聲で熱誠なる應援をさる、中には泣いてまでもどなつて居る一番打者からだ然し先攻はこうなると一寸心配だ然し下村竹中自重に自重して四球を選びしも川崎三振牧野左翼飛球大橋遊飛に無爲となる。(裏) 牧野投手腕が折れるまでもと奮ひしや勝見投捕辻神野三振に退く愈々試合は緊張の度を増したか補回にうつるすると兩方の應援は必死となつて勝つて呉れとせきたつ選手や死んでも憂飛はして是非得點をとバットを固く握りすぎるのか凡打や三振が大い若林最後まで球を選びしも辻元氣ついてか得意のインドロ

ツプで三振さす前川左翼失に出で清水の遊捕に封殺されて二死となる、原最後のボールまで待ちしが辻驚くばかりのインドロツプを出して又もや原を三振に終らす。(裏) 澁谷遊捕長谷川二失に出で盗壘中野四球辻右翼安打に一死満壘に殺氣漲る福島バンドを失せしも二振後再度のバンドを敢行して長谷川入壘して決勝の一點をしむるどグラウンドに涙と共に斃る選手を同情に厚き應援團はあゝ

天下は一人の天下にあらずと雖も人事を盡して天命を待つは吾人の採らざる處なりと涙の内から湧れた聲で選手を圍んで團長東野君が云ふと原主將は泣くばかりで濟みませんと云ふ聲が涙でさへざられて出てこない、いかにして諸君に報いやうやらと泣いて斃れてしまふ金龜城下は彼方よりよせきたる妖雲にとざされて空吹く風の音いと淋しく難然裡に夜の幕は次第々と垂れて行くおつとして居れないから死體同様の選手は應援團の方々に負はれて道場にかつこまれて泣きふす突然道場は雷の如く選手は死體の如くになつてしまつた中には氣絶してしまふ選手の哀れさよ、遂に期

待された大會も悲劇と化した。然し當日の戦は終始緊張の度をとほりこし悲壯を極めた今迄に見た事の無い戦ひであつた。あゝ我が部の武運つたなきを大息すること多時を熱誠なる校友會員先輩諸兄にいかにして報ひやうか許して下さい是非明年は此の恩を返へす積りですから、末筆ながら應援團諸君に深く、厚く御禮申し上げます。

膳中遠征の記

本日下村選手病氣の爲不參伊藤補缺を代用竹中遊撃を伊藤左翼を守り攻撃に於ては實力を發揮して十分に打撃を振ひ悠々大勝し石山に凱歌を擧げ痛快の極みなりき而して伊藤出陣の爲記録十分ならず此に概略を記さん勝中先攻四回に二點五回に一點を占め本校一回に三點三回に一點四回に三點七八回に各一點宛計八點を得たり。

崎 中野橋水川藤林 田原城村藤木村條田
川 原 竹牧大清前伊若 豊松本北近青南四横
中三遊投一右二左捕 三四投捕左一右中遊投

膳所中學と戦ふ

我軍は七月の京津大會に脆くも破れ今亦體育大會に於て八商に名譽ある月桂冠を奪はれ鬱憤遣る方なく膳中に挑戦狀を飛ばし十月一日膳中遠征の途につく。膳中先攻

(第一回)表 阪口三遊間安打横田一箇し近藤のバンドに阪口還り近藤二盗に刺され饗庭投匍(裏)竹中遊撃安打捕手の牽制暴投に球は點々と轉がり右翼手逸して一學生還下村四球に出でしが計られて死し川崎四球二盗に刺され牧野投匍。

(第二回)表 北村左飛失に一壘に生き青木の一匍後西村中堅越三壘打世森内野安打本城の投失阪口の遊匍に一舉三點を得しも横田四球近藤三振(裏)前川内野安打清水四球原の三匍に封殺大橋中堅安打に清水輕舉本壘に向ひて刺され竹中二匍に好機を逸す。

(第三回)表 饗庭遊匍北村三振青木の右飛に無爲(裏)下村四球河崎二匍に封殺を喫し牧野の中飛若林の二飛に無爲。

(第四回)表 西村世森三振本城遊失連盜して生

還阪口二匍(裏)前川三越安打清水二匍失に前川生還原左飛大橋三匍竹中三振に無爲。

(第五回)表 横田近藤共に四球に出で饗庭の捕飛後北村三振し青木の三匍失に横田還り西村三振す(裏)下村三振に殪れ川崎牧野中飛に終る。

(第六回)表 世森本城投匍坂口三匍失に出で盜壘捕手の高投に還り横田四球近藤三匍(裏)若林遊匍前川投飛後清水原四球を利せしも大橋二匍。

(第七回)表 北村長棍一振中堅越本壘打す青木投匍西村三振世森遊匍(裏)竹中左飛下村中飛川崎中堅飛球。

時に降雨至りて中止し七回迄のスコアーにて八對二我が軍大敗す。

口田藤庭村木村森城	盜死球壘	四五
坂横近響北青西世本	安打振數	四七
中投左二捕三一遊右	打數	二五
中村崎野林川水	安打振數	二四
竹下川牧若前清原大橋	盜死球壘	二六
遊右左投捕二	三	一

大正九年度野球部戦績

一滋賀師範學校對本校	無勝負	三回ゲーム
二膳所中學校對本校	十對八本校勝	八回ゲーム
三敦賀商業學校對本校	三對二本校負	九回ゲーム
四岐阜師範學校對本校	三對一本校勝	九回ゲーム
五愛知第一中學對本校	十二對一本校負	五回ゲーム
六明倫中學校對本校	十對四本校負	九回ゲーム
七膳所中學校對本校	八對一本校負	七回ゲーム
八八幡商業學校對本校	九對零本校勝	(來權)
九敦賀商業學校對本校	九對零本校負	同
十八幡商業學校對本校	四對三本校負	十回ゲーム
二膳所中學校對本校	八對二本校勝	九回ゲーム
二同	八對二本校負	七回ゲーム

此の内で技倆變り無く負けた試合は六十等で此等は實に運無きと云ふべく女神の作用したものである又敵に技倆が劣つてゐた場合でも五、七、十二等は點數の差は如何にも荒い實力はスコアーの示すよりも以上の接近したものである。而して我が軍の勝ち得たものは當然のものである要するにもう少し勝ち星を得たいものである。

四勝七敗一無勝負は本年の成績としては妥當であらう唯年來の仇敵大垣中學岐阜中學を屠る機無く過しあまつさへ恨ある八幡商業を加へた此に於て大正十年度差當り征すべきは此の三校で又膳中にも報ひなければならんよろしく十年度選手諸君よ奮勵努力一層の猛練習を重ねて恨みを雪ぎ我が球史を輝かせ給へ。(M生)

回顧すれば陽春花の候より晩秋霜の季まで風吹く夕も霜降る朝も炎天酷熱の日も、或はコーチャとして或はマネージャーとして一意専心我部の爲多大の努力を賜はりつゝある藤谷先生を初めとし体育俱樂部の各位には陰に陽に選手一同を指導激勵せられ又一方には後援會の諸兄には財政上甚大の援助を賜はりし事並びにボール防禦網完成其の他種々の事業に一宮、大日方、竹中、宮村、文泉堂山田の諸氏より少なからざる援助を受けし事は誠に感謝の至りに堪へざる所なり。

斯く卒業生其の他各位の援助及び學校當局は勿論、或は秩序ある應援團を組織して熱誠なる聲援を以て激勵し我部隆盛の爲に又本校名譽發揚のた